

- 伊佐地域の根深ねぎは、**平成7年に110ha栽培**されていたが、輸入による価格低迷や生産農家の減少により**平成22年には24haまで減少**した。
- 一方で、近年、根深ねぎを経営品目とする**新規就農者が増加**した。
- 新規就農者の定着・経営安定に向け、関係機関・団体が一体となり、**支援体制の整備、技術・経営指導、水田の汎用化技術の確立**に取り組んだ。
- その結果、平成24年以降の新規就農者9名の平成27年産の栽培面積が10.2haで、産地(28ha)の36%を占めるなど、**新規就農者の定着、経営安定が図られつつある**。

具体的な成果

- 1 新たな担い手の確保
  - 市が情報を一元化し、関係指導機関が一体となって新規就農者の育成・支援を行う体制を構築
  - 新規就農ガイドブックの作成・活用

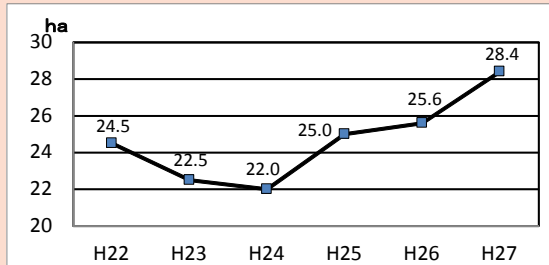
伊佐市新規就農ガイドブック

- 1 農業を始める前に  
(考えてほしいこと、先輩からのメッセージ)
- 2 各相談窓口はこちらから  
(各機関の相談内容と連絡先)
- 3 伊佐で農業をするなら
  - (1)主な営農類型
    - ①水稲専作
    - ②露地野菜1品目（根深ねぎ）
    - ③露地野菜2品目（根深ねぎ、かぼちゃ）
    - ④露地野菜2品目（かぼちゃ、こぼろ）
    - ⑤施設野菜+露地野菜
    - ⑥生産牛専作
  - (2)主な品目の技術と特徴  
(水稲、生産牛、根深ねぎ)
  - (3)農業に必要な機械など
  - (4)農地の確保について
  - (5)経営管理について
- 4 就業計画を考えてみよう
- 5 各種研修等について
  - (1)各種研修等
  - (2)指導農業士紹介



- 2 新たな担い手が栽培技術を習得し、根深ねぎの産地を拡大
  - 新規就農者を中心とした研修会
  - 農業公社生への基礎講座

- 3 新たな担い手が「水田汎用化マニュアル」を活用し農地を確保
  - 団地化の推進
  - 連作障害や湿害の回避



根深ネギ栽培面積の推移

普及指導員の活動

- 市が情報を一元化し、新規就農者育成・支援を行う**体制を整備**
- 関係機関で「伊佐市新規就農ガイドブック」を作成し、**就農相談で活用**
- 根深ねぎの新規就農者を対象に**栽培技術・経営検討会を実施**
- 水田での根深ねぎの生産性を向上するため、**排水対策や水田の復元化の実証**を行い、その結果を基に「**水田汎用化マニュアル**」を作成
- 夏越しの作型に適する品種の実証・導入**
- 根深ネギの栽培技術・経営検討会の中で、若手生産者による**研究会組織設立**の気運が高まり、自主的に組織を設立

普及指導員だからできたこと

- ・市、JA、農業公社と連携し、**活動計画や役割分担を明確**にすることで、効率的・効果的な活動を展開することができた。
- ・所内の経営担当などとの連携により、**新規就農者に対する適切な技術・経営指導を実施することができた**。

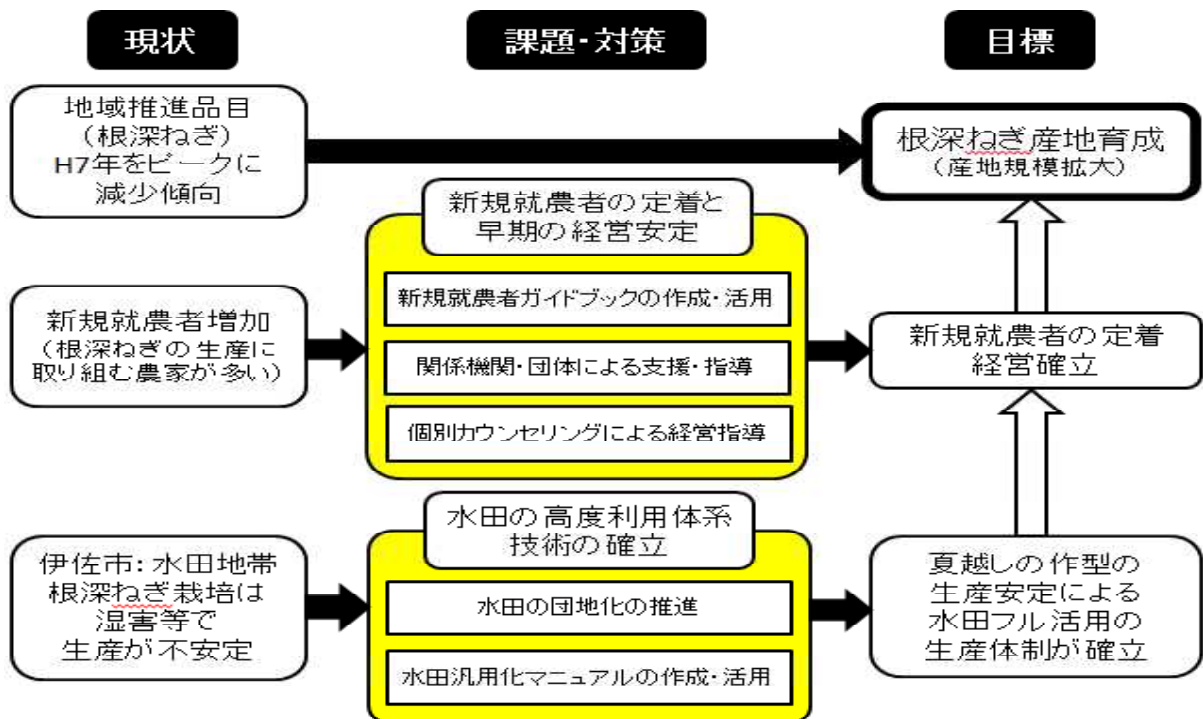
## 新規就農者支援による根深ねぎ産地の育成

活動期間：平成27年度～継続中

### 1. 取組の背景

伊佐地域では水田転作品目として、昭和61年に根深ねぎを導入し、平成7年には110haまで拡大したが、輸入による価格低迷や生産農家の減少により平成22年には24haまで減少した。しかし、平成24年度に始まった青年就農給付金制度などにより、当地域において、根深ねぎを生産する新規就農者が増加している。

新規就農者の指導・支援体制の整備や水田での根深ねぎの安定生産に取り組み、新規就農者の定着と経営確立することで、根深ねぎの産地育成（産地規模拡大）を図る必要がある。



### 2. 活動内容（詳細）

#### (1) 活動の経過

##### ア 新規就農者支援体制の整備

市が情報を一元管理し、関係機関・団体が連携しながら、就農相談から研修、就農後の支援等を行う支援体制を整備した。

##### イ 新規就農者ガイドブックの作成

就農相談が円滑に支援できるよう新規就農者ガイドブックを作成し、就農相談等で活用している。

##### ウ 新規就農者の経営確立支援

就農給金（経営開始型）受給者の経営状況及び課題を把握し、経営確立に向

けた対策について支援している。

エ 栽培技術の向上

新規就農者を中心とした研修会や農業公社の研修生を対象とした基礎講座を行い、栽培技術の向上を図っている。

オ 水田における排水対策，復元化技術の確立

伊佐地域は水田が多いため，水田でのねぎ栽培における排水対策，復元化技術（鎮圧ローラーによる硬盤の再生）の実証を行い、「水田汎用化マニュアル」を作成し，指導等に用いている。

カ ねぎ個別カウンセリングの実施

平成26年度から個別カウンセリングを実施し，生産者の経営，技術の課題を把握し，その後の指導，支援に役立てている。

(2) 指導・支援の体制

新規就農者の育成については，市農業再生協議会の「担い手サポートチーム」において，関係機関・団体の役割分担，活動の進め方を検討している。

ねぎの栽培指導については，行政，JA等の技術員で構成する協議会で活動について検討し，関係機関一体となった支援を行っている。

普及組織では経営担当や新規就農担当，資金担当と野菜担当が連携して支援に当たっている。

		振興局	市農委	JA	農業公社
就農までの課題解決支援	就農相談会の開催	○	◎		○
	就農計画の作成支援	◎	◎		○
	農地の紹介		◎		
	研修先の紹介				◎
	技術・経営指導	◎		○	
就農後の早期技術習得	補助事業や資金の活用	○	◎	◎	
	スタート講座	◎		○	
	重点巡回指導	◎		○	



関係機関の役割分担

就農状況確認調査

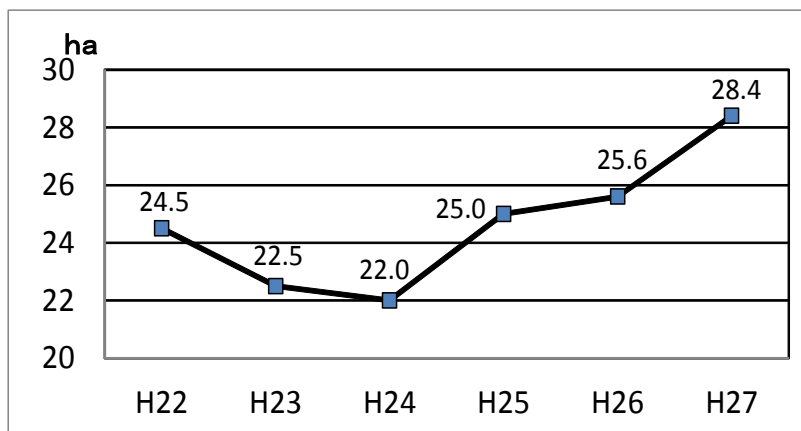
3. 具体的な成果（詳細）

(1) 市が情報を一元化して新規就農者育成・支援を行う体制ができ，新たに作成した「新規就農者ガイドブック」に基づく就農支援と併せ，個別の事案に対し各指導機関が連携した的確な対応がとれるようになった。

(2) 新規就農者の育成・定着により，担い手が確保されるとともに，年々減少してきた根深ねぎの産地規模が拡大し地域農業が活性化してきた。これにより，新規就農者の確保・育成が地域農業の重要課題として再認識された。

(3) 水田での畑作品目の安定生産を図るための「水田汎用化マニュアル」を作成し，転作作物の栽培定着を意識づけることができ，新規就農者の農地確保にもつながっている。

- (4) 平成24年以降の新規就農者9戸の平成27年産の根深ねぎ栽培面積は10.2haで、産地栽培面積の28haの36%を占め、栽培面積1ha以上が4戸となるなど、新規就農者の定着、経営安定が図られつつある。



根深ねぎ栽培面積の推移

#### 4. 農家等からの評価・コメント

これらの活動を通じて産地の育成や成長につながるよう期待しています。新規就農者の抱える課題も解ってきたと思いますので、更なる支援をお願いします。また、新規就農者の定着に対する生産者部会の取組がないので、部会だからこそ担える役割とそれを果たせる部会の育成も必要と思います（伊佐市0氏）。

#### 5. 普及指導員のコメント

（始良・伊佐地域振興局農政普及課伊佐市駐在 技術主幹 長谷場 勇輝）

所内の協力や関係機関との連携により、一步ずつ課題解決を図って行くことができたのではと思います。新規就農者が増え、根深ねぎの栽培面積も増えてきましたが、個々の経営は課題が多く、今後も関係機関が一体となった支援が必要と考えます。また、新たに設置した若手生産者の研究会組織にも期待したいところです。

#### 6. 現状・今後の展開等

##### (1) 今後の課題

ア 新規就農者への支援等により、個々の面積拡大は図られつつあるが、目標所得を達成できていない農家が多く、今後も経営確立支援が必要である。

イ 就農相談から就農後の支援に対する関係機関の体制はできたが、目標所得を達成するための支援体制の確立が必要である。

ウ 特に新規参入者を中心に農地の確保が課題となっているが、要望に十分に答えられていない状況なので支援のあり方を含めた対応を検討する必要がある。

##### (2) 今後の活用に向けて

新規就農から経営確立までの支援体制が確立することにより、ねぎ栽培農家の育成と根深ねぎ産地の振興につなげる。